

アナログ回路技術 日立OBらが指導 NPOを群馬で設立

【前橋】旧日立製作所高崎事業所（群馬県高崎市、現ルネサステクノロジ高崎事業所）のOB技術者らが非営利組織（NPO）を設立し、アナログ回路技術の指導や研修業務の受託に乗り出す。

アナログ技術は音声や電波、電源などの制御に不可欠で、デジタル回路に比べ設計が複雑なため、技術者の養成に時間がかかるという。企業OBの立場から技術力の底上げに協力する。

NPOはアナログ技術ネットワーク（ATN、群馬県高崎市）として設立。このほど群馬県に法人格認証を申請した。理事長には日本サーボの堀江昇社長が就く。

ATNはまず群馬県内の企業から電気回路の技術者に対する研修を受託するほか、個別の回路設計についても会員が相談に応じる。「アナログ技

術について総合的に相談を受けることができる組織を目指す」（堀江氏）としている。アナログ技術集積を政策として掲げる群馬県の政策立案にも参加する。

現在の会員数は十人で、うち九人が日立でアナログ半導体設計を手がけた経験があり、それぞれ無線通信や光通信などの得意分野を持つ。今後、同業他社からもOB技術者を中心に会員を募るほか、電子技術を専門とする大学教授も参加する。企業OBが持つ技術の蓄積に加えて、研究機関から最新技術を吸収していく。